

第8回「明日の西湘海岸を考える懇談会」 議事要旨

- 開催日時 令和6年1月26日（金） 13:30～15:00
- 開催場所 二宮町生涯学習センター ラディア
ミーティングルーム（Web 併用）
- 出席委員（敬省略）

【座長】宇多 高明	日本大学 客員教授	有識者
佐藤 慎司	高知工科大学 システム工学群 教授	
川辺みどり	東京海洋大学 教授	
柴山 知也	早稲田大学 理工学術院 教授	
武井 正	（公財）相模湾水産振興事業団代表理事	漁業関係
高橋 征人	小田原市漁業協同組合代表理事組合長	
小島 拓	大磯二宮漁業協同組合代表理事組合長	
上田 雅一	大磯二宮漁業協同組合副組合長	
小泉 隆史	大磯町区長連絡協議会会長	住民 利用者
蒲原 辰弘	大磯海の会議代表	
山田 幸伯	二宮町地区長連絡協議会代表	
田邊 邦良	二宮町観光協会会長	
小又 寛	二宮海岸に砂浜を戻す会代表（Web）	行政
加藤 史訓	国土交通省国土技術政策総合研究所海岸研究室長	
鳥海 義文	小田原市副市長	
鈴木 一男	大磯町副町長	
渡邊 康司	二宮町副町長	
田村 貴久	神奈川県県土整備局河川下水道部防災なぎさ担当課長	
近藤 修宏	神奈川県県西土木事務所 小田原土木センター所長	
近藤 充志	神奈川県平塚土木事務所長	
荒木 茂	国土交通省関東地方整備局河川部低潮線保全官	
嶋崎 明寛	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長	

○ 議事

1. 開会
2. 議題
 - (1) 直轄西湘海岸保全対策事業の概要について
 - (2) 神奈川県海岸保全対策事業の概要について
 - (3) 意見交換
3. 閉会

・配布資料

- ・第8回「明日の西湘海岸を考える懇談会」次第
- ・第8回「明日の西湘海岸を考える懇談会」委員出席者名簿
- ・第8回「明日の西湘海岸を考える懇談会」配席図
- ・「明日の西湘海岸を考える懇談会」規約
- ・「明日の西湘海岸を考える懇談会」傍聴規定
- ・直轄西湘海岸保全対策事業の概要 京浜河川事務所資料
- ・神奈川県海岸保全対策事業の概要 神奈川県資料

○議事要旨

【直轄西湘海岸保全対策事業の概要について】

- ・養浜の砂と礫を一緒にすると、動き出せばすぐ上が礫で下が砂になり礫の間に砂が入ってボリューム的に損してしまう。

【神奈川県海岸保全対策事業の概要について】

- ・二宮海岸山西地区に累計で 36 万 m³を投入した結果、どれだけ砂浜が広がったのかという質問が出た場合、目に見える成果の回答は可能か。
- ・(神奈川県) 山西地区ではないが、二宮地区では、平成 23～26 年度までの 4 年間で 7 万 8,000m³の養浜を行い、30m の浜幅が回復し、現在も保全されている。
- ・一般の人からは、昔あった砂浜が戻ったのかという素朴な質問が来る。言葉を用意する時に、分かりやすい説明をお願いしたい。
- ・小田原海岸前川地区の防潮窓は、しばらくすると汚れとひび割れ、霞んでしまい、当初の目論見と違ってしまうかもしれない。住民目線でいいものが出来たとなるようお願いしたい。

【意見交換】

- ・30mm や、50mm 以下の養浜材は、礫養浜の専門の立場から見ると、十分大きな礫が含まれていると評価して良い。
- ・岩盤型潜水突堤が完成後の高波浪は経験のないことなので、高波浪時に何が起こるかよく見ていただきたい。
- ・二宮海岸の下向浜地区や二宮地区に養浜されているが、見えるところは砂がたまっているが、年々水深 5m ぐらいまでの岩盤が露出してきている。毎年の養浜量は足りているのか。
- ・(神奈川県) 養浜は、平成 23 年に策定した侵食対策計画に基づき行うこととしており、今後も現地の状況に応じて、養浜量も含め適切な養浜事業を続けていきたい。
- ・岩盤型潜水突堤の図面に、幅・長さはあるが高さが表示されていない。また、下が砂地なので、5 年たったなら何 cm 沈むと想定しているのか。
- ・(京浜河川) 一番高い所で T.P+2m。また、鋼管矢板は T.P - 15 ~ - 18m まで打ち込んでいるので、沈下は考えていない。「T.P は東京湾の平均的な海水面からの高さ」
- ・京浜河川の養浜が 36 万 m³ となっているが、どのくらいの期間で行うのか。
- ・(京浜河川) 令和 6 年から 23 年までの中で行う予定。
- ・かつて 30 年ほど前に、二宮海岸に養浜材を 30 万 m³ 入れたことがある。その時は数年でなくなり、海底は浅くなった。現状を見ると、大磯海岸に砂がつくのか不安がある。
- ・防潮堤の窓ですが、大きい石がどんどん飛んでくる。現状でも沿岸域の家屋は窓ガラスを割られてしまう状態なので、厚いアクリルでも、大きいものが当たると見えなくなるのでは。
- ・(神奈川県) 現在、窓の大きさや厚みは検討している状況。想定し得る石などが飛んできて耐えられる厚みを検討していく。
- ・養浜について、過去に入れたけど直ぐに無くなったという厳しい話を伺ったので、よくモニタリングして、目的を達成しつつあることを適切な時期に回答願わないと、

心配だという話が残ってしまう。

- (京浜河川) モニタリングし、効果を確認しながら行っていきたい。
- 防潮堤に窓をつける話ですが、これは防災構造物なので、弱点をつくらないほうが良い。何処かの事例で、この部分が弱点にならなかった事が確認されて、全国に普及していくべき。
- 西湘海岸は全国的に、あるいは世界的に見ても、浜を安定させるのは難しい海岸だと思う。いろいろな要因があるが、一番は海底が急に深くなっていること。もう一つ流れが速い。UAV の話もあり頻繁に状況確認ができるようになったので、こういう場で、現在の状況を確認しながら進めていくのが良い。
- (京浜河川) 整備しながら、モニタリングしながらだと思ふ。河川管理者、堰管理者やダム管理者とも連携し、総合的な土砂管理で、効率的に、より安く、養浜事業ができるよう、御相談させていただきたい。
- この場以外にも地区での懇談会はやっているのか。
- (神奈川県) 前川地区で、嵩上げの懇談会を開催している。計画当初から、地元の説明会を開催し、その後、「小田原海岸国府津・前川地区高潮対策促進懇談会」という協議会を設置。地元関係者と意見交換を行い、今回の窓も意見交換、合意形成を進めている。
- モニタリングを行い、効果があったのか、なかったのか共有いただきたい。また、懇談会とか、関係者、漁協とか住民の全体の組織図的なものがあるといい。
- 一度、現地を見させていただきたい。
- (京浜河川) 今後御相談させていただきたい。
- 工事の進捗状態を共有いただきたい。
- 養浜の量と質の話があるが、予測は、平均的にこうなると決めたもの、実際の波は、今年は大きかった、今年は穏やかだったとか、変動もあり予測どおりにならないので、モニタリングしながら、必要に応じて見直していくことが大事。
- 沿岸の市町に住まれている方はたくさんおり、そういった方も海岸に来たりする。その海岸が変わってきていることに危機感を持っている方もいるので、いろいろな場を通じて、取組の PR や、広報で知っていただくことが大事。
- 人工構築物を海岸線、海に入れることは反対ですが、施設が出来たことにより人命が助かったという実証があれば話は変わる。また、海岸に行った方の避難経路の充実と、浜から逃げる動線の確認をお願いしたい。
- (神奈川県) 海岸のパトロールは定期的に行っており、土木事務所とも情報を共有し、点検をさせていただく。

以上